

出エジ1 出エジプト記1章1節～22節

「迫害を受けるイスラエルの民」

イントロ：

1. 文脈の確認

- (1) 創世記は、光と命から始まり、死と闇で終わった。
- (2) アダムの罪と、罪の広がりがある原因である。
- (3) 神は解決策を用意された。
 - ①アブラハムの選び（アブラハム契約）
 - ②イサク、ヤコブ、ヨセフに与えられた数々の約束
- (4) エジプトで約400年間奴隷となる。偶像礼拝の影響を受ける。
(例話) 10月28日、鳩山由紀夫首相の所信表明演説に対する各党の代表質問
 - ①トップバッターは自民党の谷垣禎一総裁
 - ②民主党の衆院選マニフェストを踏まえ、「鳩山内閣は内政・外交、象徴的には日本郵政の人事にいたるまで、約束違反・言行不一致ばかり」と批判。
- (5) 出エジプト記のテーマは、神はマニフェストを実行されるか、である。

2. 名称

- (1) 日本語で出エジプト記
- (2) ギリシア語でExodos、英語でExodus
- (3) ヘブル語で「ヴァエレー・シュモット」（さて、これらが名前である）

3. 出エジプト記は、解放の書である。

- (1) すべての解放の型がここにある。
- (2) イスラエルの歴史における解放
 - ①バビロン捕囚からの解放
 - ②20世紀のイスラエルの建国
 - ③1990年代の旧共産圏からのユダヤ人の祖国帰還
- (3) イエスによる霊的解放
- (4) メシアニック・ジューの登場により、2重の意味で、私たちの解放の物語となってきた。

4. メッセージのアウトライン

- (1) 創世記のまとめ（1：1～7）

- (2) 苦役に苦しむイスラエルの民（1：8～14）
 - (3) 民族抹殺におびえるイスラエルの民（1：15～22）
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
- (1) 反ユダヤ主義の源流
 - (2) 解放の必要性
 - (3) 解放の先にあるもの

このメッセージは、現代の出エジプトについて学ぶためのものである。

I. 創世記のまとめ（1：1～7）

1. 「ヤコブから生まれた者の総数は70人であった」
 - (1) 使徒7：14では、その総数は75人となっている。
 - (2) 死海写本、七十人訳がそうになっている。
 - (3) ヨセフには5人の孫が生まれた。その5人を加えると、75人になる。
 - (4) 70という数字は、象徴的なもの。完全数。
 - ①70人から、地上の民族を祝福する民が出現する。
 - ②祝福を受ける諸国民は、70である（創10章のセム、ハム、ヤペテの子孫たち）。

2. ヨセフもその兄弟たちも、その時代の人々もみな死んだ。
 - (1) リーダーシップがなくなった。
 - (2) 彼らは迫害が起こる前に亡くなった。
 - (3) 彼らはシェケムに葬られた（使7：16 ステパノのメッセージ）
 - (4) なぜ400年もとどまったのか。
 - ①創15：13～15 「エモリ人の咎が、そのときまで満ちることはないから」
 - ②エモリ人とは、カナン人を総称した言葉である。
 - ③イスラエル人によるカナン征服には、神の裁きとしての側面がある。

3. イスラエル人はおびただしく増えた。
 - (1) エジプトにおいても、アブラハムへの約束は有効であった（創15：5）。
 - (2) 神の守りがあった。
 - ①70人から200万人に
 - ②バビロン捕囚でも
 - ③紀元70年以降の世界離散でも

II. 苦役に苦しむイスラエルの民（1：8～14）

1. 「さて、ヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに起こった」

(1) 「王」＝「パロ」

- ①パロとは、「偉大な宮殿」という意味。
- ②パロはエジプトの神々の最高峰であり、絶対的な権威を持っていた。

(2) 出エジプト記には2人のパロが登場する。

- ①モーセが誕生した時のパロ
- ②出エジプト時のパロ

2. 時代背景について

(1) 外部から侵入して来た異民族がエジプトを支配した時代

- ①第16王朝、第17王朝時代
- ②ヒクソス王朝（前1650～1550年） 「羊飼いの王たち」
- ③エジプト人はハム系、ヒクソスはセム系。
- ④ヒクソス王朝は、セム系の移民を歓迎した。
- ⑤この時代に、ヨセフは宰相となり、ヤコブの一家がエジプトに下った。

(2) ヒクソス王朝から第18王朝への変化

- ①エジプト人による支配が回復された（前1540年）。
- ②第18王朝は、セム系の人々を疑いの目で見たと。
- ③これで、イスラエル人を迫害する人種的、宗教的背景が整った。

(3) 新しい王朝（第18王朝）の初代の王（アフモス一世）

3. 迫害の理由

「さあ、彼らを賢く取り扱おう。彼らが多くなり、いざ戦いというときに、敵側についてわれわれと戦い、この地から出て行くといけないから」

- (1) 「敵側」とはヒクソク王朝の残党
- (2) 「この地から出て行くといけないから」（新改訳）
- (3) 「この国を取るかもしれない」（新共同訳）

4. 迫害の4段階

(1) 苦役をそれまで以上に重くする。

- ①奴隷を管理するための係長が任命された。
- ②倉庫の町ピトムとラメセスを建設するために使役した。

*ピトムとは、「ツム(エジプトの偶像神)の家」という意味。

*ラメセスとは、「太陽神の息子」という意味。

*単に倉庫の町ではなく、偶像礼拝の中心となる町を建設させた。

*考古学の発掘：後期青銅器時代(前1550～1250年)に建設された。

(2) しかし、イスラエル人たちはますます増え広がった。

①過酷な労働によって、出生率を減らそうとしたが正反対の結果が出た。

②創15:5の成就。神の守りがあった。

(3) それを見て、エジプト人はイスラエル人に対する恐れを抱いた。

(4) そこでエジプトは、さらに過酷な労働をイスラエル人に課すことにした。

①粘土やれんがの激しい労働

*石はエジプト南部でしか採れない。

*エジプトの北部では、れんがが建材として用いられた。

*貝殻やわらを混ぜた粘土を型に入れ、それを日干しにした。

②畑のあらゆる労働

③過酷な労働

5. クリスマンへの教訓

(1) イスラエル人の力は、神から来ている。

(2) 現代のリバイバルの多くは、迫害のある地域で起こっている。

(3) 「…あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。

わたしはすでに世に勝ったのです」(ヨハ16:33)

Ⅲ. 民族抹殺におびえるイスラエルの民(1:15～22)

1. 民族抹殺の命令

(1) エジプトの王は、ヘブル人の助産婦に命じる。

①「ヘブル人」とは、イスラエル人が異邦人に自己紹介する時に使う言葉。

②エジプト人やペリシテ人は、軽蔑の意味を込めてこの言葉を使う。

(2) 「産み台の上を見て」(新改訳)

①「2つの石を見て」

②「子供の性別を確かめ」(新共同訳)

(3) もし男の子なら殺し、女の子なら生かしておけ。

(4) 古代の法律では、子どもの人種は、父親によって決まる。

①イスラエル人の女がエジプト人の子を産むなら、その子はエジプト人。

②あるいは、別の人種の奴隷と結婚するなら、奴隷の数は減らない。

2. シフラとプア

- (1) 助産婦の代表
- (2) 助産婦たちは、エジプトの王よりも神を恐れた。
 - ①箴1：7、9：10
- (3) 王の命令に背き、男の子を生かしておいた。
 - ①王は権力者で、思いのままに人を動かすことができた。
 - ②助産婦たちは奴隷で、無力であった。しかし、王に従わなかった。

3. 王の尋問と助産婦たちの答え

- (1) なぜ男の子を生かしておいたのか。
- (2) 「ヘブル人の女はエジプト人の女と違って活力があるので、助産婦が行く前に産んでしまうのです」
 - ①本当の理由を隠している。
 - ②神は、人がご自身に対して従順であるかどうかを最も問題にされる。
- (3) 神は、彼女たちの信仰を大いに祝福された。
 - ①イスラエルの民は増え、非常に強くなった。
 - ②彼女たちにも子どもが生まれ、その家は栄えた。

4. 反ユダヤ主義政策

- (1) 助産婦を使うという方法が失敗したので、民を動員するという方策を実行した。
- (2) 「生まれた男の子はみな、ナイルに投げ込まなければならない。女の子はみな、生かしておかなければならない」
 - ①反ユダヤ主義政策が、公の政策として採用された。
 - ②エジプトは、反ユダヤ主義政策を公に採用した最初の国となった。
- (3) 最悪の局面に入った。エジプトを脱出せねばならない日が刻々と近づいていた。

結論：このメッセージは、現代の出エジプトについて考えるためのものである。

1. 反ユダヤ主義の源流

- (1) 恐れが原因である。
- (2) 神の計画を妨害する力が背後で働いている。
- (3) すべての反ユダヤ主義は、神の計画を否定し、神ご自身を否定する。

2. 解放の必要性

- (1) 1章は解放の必要性について語り、2章は解放者の準備について語っている。
- (2) イスラエル人の状況は、解放の必要性を雄弁に語っている。
- (3) 私たちもまた、靈的には罪からの解放を必要としている。
 - ①認罪は救いの前提条件である。
 - ②パウロはロマ1～2章で、野蛮人もギリシア人もユダヤ人も同罪だとする。
- (4) 私たちのモーセはすでに現れた。
 - ①ロマ3：23～24

3. 解放の先にあるもの

- (1) 出エジプト記というタイトルについての疑問
 - ①洗礼を受けて満足しているなら、信仰は後退するしかない。
- (2) 出エジプト記の構造
 - ①1～18章は、出エジプト体験（洗礼を受けるところまで）
 - ②19～24章は、シナイ契約とモーセの律法（神がどういうお方であるかを知る）
 - ③25～40章は、幕屋と神の臨在（神との交わり）
- (3) 私たちの課題
 - ①求道者は、出エジプト体験をすること。
 - ②洗礼を受けた者は、神を知り、神との交わりを楽しむこと。